

中田かわら版 2月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■年頭のご挨拶

中田連合自治会会長

上原 敏博さん (池谷自治会)

中田連合自治会を代表しご挨拶申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。令和という新しい年号を迎えた最初の賀詞交換会となりました。皆様はこの新しい時代の最初の元旦をどのように迎えられたのでしょうか、私は例年のように御霊神社に参拝し、その後天皇杯のサッカーの決勝戦を国立競技場に観戦に参りました。国立競技場は客席の全てから競技を真近かにみる事が出来、機能的に素晴らしい競技場でした。この夏は全国が東京オリンピック・パラリンピック一色になる事と思います。

さて、横浜市は昨年策定した中期4ヶ年計画の中で安全と安心、夢と希望を感じられる横浜市を目指し、住みたい町住み続けたい町づくりに励んでおります。しかし私はこの中田の町ではこの事はすでに実現出来ているものと思っております。

この50年をこえる歴史の中で多くの先人の方々の不断の努力により、人と人とのつながりを大切に「ふるさと中田」が出来上がっている印象を強くもっております。

世帯数15,000、人口33,000人、29の自治会、町内会をもつ連合組織です。そこには400名をこえる役員の方々が日頃与えられた責務を果たし社会貢献の高い意識の中で今日を支えております。

又、地区経営委員会が問題解決の場として活性化をもたらし、連合自治会との両輪となって活動しております。

■ ■
少子高齢化のすすむ中、人口が減っておりますがこの中田地区では子育て世代を中心として若い世代が増え、人口の増加をもたらしております。5つある小中学校がそれぞれ地域と協力しあい、安心して子育てが出来ている結果と思っております。

特に中田小学校マーチングバンドは15年連続全国大会に出場し、金賞をとり続けております。又東中田小学校でも関東大会連続金賞との事でこの小さな中田が全国レベルの高い音楽の町として評価されております。

さて、時代と共に新しい取り組みが必要とされております。

今迄必ずおこるといふ大地震に対して真剣に対応して参りました。世界規模の異常気象はこの国においても想像以上の雨、風、水による災害を与えています。中田連合はこれに対し防災部を新設し積極的に対応をすすめております。

■ ■
ここに於いて、深谷通信隊跡地の広域避難所としてどのように考えられるのか、泉区として粛々と利用計画が出来上がっております。この77haの広大な広場は横浜市の宝であり我々住民の将来への希望と夢をのせた子供や孫達に残す為の大切な場所と考えております。

しかし、冷静にこの泉区をみた時、みなとみらい地区の華やかな街並みは、全国第一位の憧れの町となり、港北ニュータウンでは都会的な近代的な建物が立ち並び、素敵なまちづくりがすすんでおります。ところでこの西南部にある港南、栄、戸塚、泉、瀬谷、旭区と比較した時、その格差はどのように理解したら良いのでしょうか。この夢のもてる通信隊跡地はすでに16haが墓地として決定され、あとはスポーツ広場として、陸上競技場、野球場など全てオープンスペースになると聞いています。

陸上競技場については国体の開催が可能な体育館として、また音楽堂を兼ねたアリーナ的な建物の建設を望んでおります。こういった建物が出来ることで活気あるまちづくりが出来るのではないのでしょうか。

そして、この泉区がスポーツと音楽を中心とした文化田園都市として未来を築いてゆく事に中田連合自治会は積極的に行動して行きたいと決意を示させていただき年頭のご挨拶とさせていただきます。

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

3月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【さくらまつり】日時：令和2年3月29日(日) 10:00～15:00

場所：中田小学校 グラウンド

主催：中田小学校同窓会



原稿募集

テーマは自由。ヨコ書きで600字前後。普段思っていること、思い出に残った旅行のこと、古い中田の話、私の趣味など。写真があればつけてください。写真は返却いたしますが、記事は返却しませんので予めコピーしておいてください。なお、編集の都合上、添削することがあります。送り先：踊場地域ケアプラザ 葛西まで。

■新民話「おたまとねこの玉」完成

第1回「楽しく語ろう猫カフェ」開催



12月15日、従来の「猫と踊場」に代わって内容も一新した短編民話小説「おたまとねこの玉」（作・福德齋本慶）をテーマにしたトークショーが踊場ケアプラザで開かれた。

（主催；踊場ケアプラザ、共催；一般社団法人 JAPAN INSTITUTE 和黃猫舞山委員会^{わこうびょうぶさん}）。民話を通して「中田の経済・文化・教育・福祉の活性化につなげたい」。会場にはおよそ40点の猫コレクションのコーナーも設けられ、50人の参加者が3時間のトークを共有し楽しんだ。

第1部は作者と「かわら版」編集長（宮田貞夫）の対談。冒頭、作者の福德齋本慶^{ふくとくさいほんけい}とは誰なのか、長い間なぞだっただけに今日、その実像が判明した。井上秀樹氏。中田では社会福祉、更生のレジュエント、藍綬褒章・井上静子さんが井上氏の母親と言えお分かりだろう。美術家、画家として内外では著名な方。海外での活動が長く、地元ではあまり知られていないが、対談では両親の影響か、地域社会の将来を見据えた文化、経済、教育、福祉への情熱が話の中で伝わってきた。飽食の時代だからこそ、か



つて日本も貧しく、「おしん」の時代が確かに存在した。その経験を、もう一度、思い起こしてみる必要があるのではないか。新民話を書く動機にも感じられた。

第2部は5氏によるパネリストから「猫と地域」の思いが語られた。中田社協会長・飯島猛旦氏、踊場ケアプラザ所長・生田純也氏、共働舎所長・萩原達也氏、元「えらん・よこはま」主宰・常井正憲氏、戸塚歴史見知楽会会員・内藤有子氏。最後に参加した女性からの質問に答え、令和2年1月3日の「文化の日」には「おたまと猫」をあしらったモニュメントの除幕式の構想が発表された。(M)

編集部員募集

「文章を書くのが好きな人、文章をうまく書けるようになりたい人」。

男女、年齢問わず募集。地域の人に知らせたい、知ってほしい記事を中心に企画し、編集作業（取材、校正、レイアウトなど）を行っています。PTA やサークルで広報に携わっている人には最適。まずはご見学ください（毎月第2月曜日午前10～正午。踊場ケアプラザ）。

『中田かわら版』は平成19年7月に創刊、今年1月号で151号を迎えました。約12年半、1度の休刊もなく発行されているのが誇りです。現在の構成員は代表の佐々木弘美（富士見丘）以下、宮田貞夫（夏刈場）、山木重樹（中下）、木下良江（富士見丘）、松本正（中下）、葛西健一（踊場ケアプラザ）。

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jp へアクセス！！